

第4回みんなで文化交流の杜をつくる会 概要

1. 開会

2. 今日のワークショップの目的と進め方について -谷津教授-

今日は最後のワークショップ。これまで3回、回ごとにテーマを設けて開催してきた。こういう会は会の中である一定の結論を出す会議ではなく、いろんな方からいろんなご意見をいただくワークショップの進め方をしている。今日はこれまでいろんなアイデアや提案をいただいたが、実際にそれぞれの機能、施設全体をうまく運営していくためにはどういう事を考えればいいのかお考えいただく。考えるにあたって道具を用意した。誰という主体があって、その人の何を使ってどういう行動を起こしていけばうまく運営、管理につながっていくのかを提案いただきたい。はじめにそれぞれの個別施設、その後施設全体としてどう運営していくかお考えいただきたい。ハコの完成までは問題ないが、運営がうまくいかない文化施設はたくさんある。市民にとって重荷にならない施設はどういうものなのかご意見をいただきたい。

3. ワークショップ作業(個別グループ)

第1テーマ：**各機能のあるべき管理運営、開館までの工程を考える** グループ別に以下のテーマを担当

A:図書館、B:文化ホール、C:子育て支援センター、D:各機能をつなぎ交流を促す空間

第2テーマ：**施設全体のあるべき管理運営、開館までの工程を考える**

運営についてそれぞれの提案を発表

提案内容を用紙上に該当するパーツを置くか直接記入

第1テーマの機能の作業終了後、同様に施設全体の管理運営について作業

プレゼンテーションの準備

4. ワークショップ作業(全体)

- ・模造紙がまとまったグループから会場正面の黒板に模造紙を掲示
- ・各グループの代表者が発表し、質疑応答

発表内容

第1テーマ：各機能の管理運営

A班：図書館

- ・とにかく図書館の場合は人材を得ないとうまく運営できない
- ・早い段階から司書と臨時職員の養成、研修を考えるべき
- ・実際の運営では司書、スタッフでは(人手が)足りないことも考えられ、ボランティアの活用を
- ・ボランティア委員会を早い段階で募集し、対面朗読をする人、読み聞かせをする人などを養成していかなければならない
- ・蔵書の充実のため、市民から本を寄贈してもらい司書やボランティアが選書し充実させていく

B班：ホール

- ・23年度当初から行政が住民に参加を呼びかけ、専門家、企業の意見を聞きながら検討していく

- ・図書館は行政が関わっているため市による直営、市民センターは住民が関わっているため民営、アルパスは企業と鹿角市は3つの業態で行っており、ホールについてもその3つが考えられる
- ・行政が資金を出す関係上、行政の関わりは外せない
- ・住民の場合は完全にボランティアは難しいので、有償が望ましい
- ・24年度は3つの運営形態について住民の意見を聞き、出た意見を開示し、また行政に要望し最終的な住民の合意を得る
- ・管理運営先は24年度中の工事着工前には決定する
- ・24年度中は2か月に1回は会合を開催する必要がある
- ・行政が管理運営した場合は資金面は問題ないが、職員の給与が高くコストが高くなる
- ・住民が管理運営した場合は組織、資金力が弱いコストが安くなり、いろんな住民が運営に参加することで発想力が行政に比べ優れる
- ・企業が管理運営した場合は行政よりはコストは安く専門性もあるが採算重視のため継続しない場合がある
- ・他の施設は既に管理先が決まっているが、ホールは鹿角市では初めての施設なので、直営でやるのか指定管理で住民がやるか企業がやるかの管理運営先の選定が重要

C班：子育て支援施設

- ・初めにスタッフ、お母さん、ボランティア、行政などで子育て支援センターをどんなふうにしていくか検討する実行委員会を組織する
- ・子育て支援センター、図書館、市民センター、ホールの各施設の代表者の会議を開催し、検討結果を各施設設計へ反映させる
- ・子育て支援センターに限らず、いま空いている部屋などを説明出来るコンシェルジュのような人を備え、ひとつの窓口で子育ての情報も図書館の情報もわかるように
- ・コミュニティラジオ局を開設し情報発信する

D班：各機能をつなぎ交流を促す空間

- ・基本設計の早い段階で行政とワークショップのメンバーが中心となって先進地の視察を行う
- ・市民を対象に説明会、学習会を開催し話し合う機会を設ける
- ・進捗状況、会の様子を伝えるニュースを発行し、参加していない人に周知する
- ・基本設計案を説明し、住民の合意を得て実施設計に入る
- ・工事期間が長いので、熱意が下がらないように2～3か月に1回は定期的にニュースを発行する
- ・カフェテラスの提案があったが、テナントを募集するにあたって行政と実行委員会が中心となり条件や出店の募集や管理者を決める
- ・テナントは開館半年ぐらい前から研修期間を設ける

第2テーマ：施設全体の管理運営

A班

- ・知識も人柄もあり、高い見地から全体を統括するスーパープロデューサーを得たい。
- ・全体をボランティアで運営していくことが大事だが、地元自治会の旭町ではその清掃や花壇の手入れを町内会がやらなければならないと話をしている。運営していくためにありがたい、力強い後援だが、それも含めて全体を運営していくボランティアを募集しながらやっていかなければならない。

- ・いま大きな課題として子育て世帯で年寄りがない家庭が多く、お母さんが育児ノイローゼになっている話をよく聞く。子育てに迷っている人がかなり居ると思われる。その人たちを図書館に呼んで、託児して自由な身になったお母さん同士で話しあったり、子供たちに図書館の機能として読み聞かせなどをしながら長期的には本の好きな子供にしていくことが出来るのではないか。図書館と子育て支援センターとの連携のパイプを太くしていくことがこの複合施設が出来てよかったと思ってもらえるほど大事なことはないか。
- ・働く人がプライドを持ち、ここで働いてよかったと思いながら働いてもらうことが利用者にとっても幸せなこと。プライドづくりをどうやっていくかも考えていく必要がある。

B班

- ・管理はコスト面やいろんな調整を考慮すると一括管理が望ましい
- ・複合施設でいろんな行事やイベントがあると思うが、駐車上などの共有スペースはイベントが重なりと駐車出来ないので、管理運営委員会をつくり各団体がメンバーとして参加し年間スケジュールの調整やイベントを共催する
- ・全体を管理するにはどんな組織がいいのかは今後の課題

C班

- ・トップがどうなるかわからないが、仮に館長というかたちで一人置いた場合、館長については施設のプロモーションが出来る情熱を持った人が必要
- ・館長の下にそれぞれの子育て支援センター、市民センター、図書館、文化ホールを管理するそれぞれの団体の連絡協議会のようなものを設けそれぞれの施設の意見を受けながら管理するかたちが必要
- ・管理にあたってはそれぞれの施設の全体の利用状況、PR活動が出来る人、施設のいろいろな設備について充分理解した人が必要
- ・施設のコンシェルジュは鹿角市の顔として観光案内も含めていろいろな情報を発信出来る人が2～3人必要
- ・建物全体で市内のいろんな情報を受け付けると共に情報を発信する基地としてこの施設を捉え、コミュニティラジオのブースを設けコミュニティラジオを通して情報を発信することがこの建物の活性化のための売りのひとつになる
- ・ホールとの連携として託児スペース、図書館については子供を託児してもらったお母さんが一人で読むなどの連携が託児を通して可能

D班

- ・全体を一括してではなく、既存の施設を管理している団体に協力してもらえるようにそれぞれの機能ごとに管理運営を行う
- ・全体を管理する組織を設置し、それぞれの機能の管理運営団体から参加することにより連携を図る
- ・実行委員会を早い段階で組織し、3か月に1回は構想を検討する会議を行い、半年に1回は住民説明会を行う
- ・26年度当初には管理者を決定する
- ・基本設計、実施設計の段階では行政が主体となるが、24年度以降は実行委員会が主体となって検討や企画を行う

5. まとめ -谷津教授-

今回のワークショップを1回目から振り返ると、1回目は施設の内容をみなさんに理解してもらうことと、施設を考えていく上での課題を抽出するワークショップをしていただき、6～7つの課題が明らかになった。2回目以降は個別の課題を検討したが、2回目はみなさんと一緒に現場に入って住んでいる人でなければわからないような現場の特徴や特に配慮しなければならないこと、逆に活かしていきたいことなどのいろいろなお話を伺った。3回目は各グループそれぞれのテーマを議論いただいた。

今回のワークショップは、いろんなことをみなさんと議論して一つの結論に結び付けるワークショップではなかった。むしろいろんな意見を出してもらうもの。内容によっては、例えばホールでも固定席がいいのか、収納出来る方がいいのかということをお二つのご意見として今回は伺った。具体的にどうするかということは、これから実際の設計の中で検討されるかと思うが、いろんなご意見があるということをおまとめしている。図書館についても同じ。そういう意味では、この4回のワークショップを通しておよそこういう文化ホール、複合的な施設の中で問題になると思われる課題は7～8割ぐらいいは出たのではないかと。どう解決していくかはこれから実際の設計の具体的な課題になっていくが。

今日のワークショップは最も難しいワークショップだった。どういうふうにこの施設を管理運営していくのか、実際には市が多額の資金を投じてこの施設を造っていくが、造ることはそれほど難しいことではない。設計者が決まってそれぞれの要求を出して出来上がるが、それ以降何十年にも渡ってどう運営されていくのかということと、誰が責任を持ってやっていくかが一番難しい。それがなかなかうまくいかない。特にホールは非常に厄介で、要求されて造るが、造られた後はお荷物になってしまう。まちの財政を圧迫するものになりかねない。それも含めて今日議論いただいたが、なかなか難しい課題で、そう簡単に結論が出る問題ではないと思う。今日はみなさんから市民がどういうふうにこの施設に関わっていくのかという視点でご意見沢山いただいた。もう一度整理してもう少し分かりやすいように示したいと思っている。

これからの予定だが、せっかく今回4回のワークショップを開催してご提示いただいたので、もう少し分かりやすいかたちで私の方でまとめて、出来れば年内に、報告書という立派なものになるかどうかは分からないが、まとめになるようなかたちでみなさんにお渡し出来るようにしたいと思っている。いずれ、全体のスケジュールはまだちゃんと伺ってありませんが、市は設計はプロポーザルを進めたいとお考えのようですので、ワークショップを通してこういう要望があるということをお二つかたちで設計、あるいはプロポーザルの参加者に伝えていくかの方法についてはこれから考えなければならないと思うが、もともと今回のワークショップはそういう目的があった訳で、いただいたご意見をきちんと設計に参加される方、あるいは設計される方に伝わるような方法を市の方と相談しながら進めていきたいと思っている。

毎回3時間の長時間に渡るワークショップだったが、今回院生を各班に一人ずつ参加させていただき、彼らはいずれ設計する立場で世の中に出て行くが、院生にとっても現場の方のこういうふうな声を聞く機会も無いかと思うのでその意味では非常に良い経験をさせていただき、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

6. 今後の予定と閉会の挨拶 -政策企画課政策監兼政策推進班長-

10月から2か月にわたりワークショップを開催させていただき、みなさんから参加いただきましていろんな意見を出していただきました。先ほど先生がおっしゃいましたように、来年から基本設計に入る予定になっておりますので、今日までの意見を反映させていただきますが、基本設計を進める段階でまたこのような会をしていきたいとの思いがあります。出来れば来年も、公募というかたちで実施する

と思いますけれども、今回参加されたみなさまからも是非参加していただければありがたいなと考えております。今日は長時間にわたりましてありがとうございました。それと谷津先生、それから院生の4名の方々、2か月にわたりましてご協力いただきまして本当にありがとうございました。今日のまとめに関しましては、前回までのようにまとめたものをみなさんにお送りし、市のホームページにも掲載することになるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

7. 各班に参加した東北工業大学の研究生、大学院生の感想発表

A班

4回ありましたが、わたし自身も知らないような貴重な意見を沢山聞けましたし、いろいろコミュニケーションを取ることで学ぶことが沢山ありました。また、みなさんに優しくしていただいて、最初はすごく不安でしたが、何回か繰り返すと楽しみになってくるような時間でしたので、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

B班

仙台から来て、よそ者として参加させていただくにあたって、1回目の段階でみなさんが仰られることなどわからないことがすごく多く、1回目終わった後に“あんとらあ”で関善などのいろんなパンフレットを集めて勉強していく中で少しずつ班の中でいろいろな意見を出せたと思ひます。年齢別のグループの発表を見た時に年代によって考えていることも思い入れも違うことをすごく実感しました。いままではそういう体験も無かったので、すごく刺激的でした。お世話になりました。ありがとうございました。

C班

建築が大好きで大学に来ましたが、建築はやはりただ建てただけでは建築と呼べないとあらためて思ひました。今回の鹿角の複合施設ということでみなさんが考えていることや思いに、鹿角市でつくるからこそ鹿角市民が携わっていかなければならないとあらためて感じさせられました。とてもすごく勉強になりました。世代によって経験していること、感じていることが違うことが、人生の先輩としてすごく勉強になりました。本当にありがとうございました。

D班

いま大学院生は就職活動中ですが、エントリーシートに書く内容もやはりこの貴重な経験が礎になっていると思ひています。自分の考え方も学部生の頃と変わってきて、ただ造るのではなくどういった人達が携わっているかを真摯に受けとめて意見を反映して造らなければならないと思ひました。貴重な体験ありがとうございました。

8. 閉会

全員で集合写真を撮影した後、閉会。

16:00閉会